

二一六三番

草枕くさまくら 旅たびに物思ものおもひ 我わが聞きけば 夕ゆふかたまけて
鳴なくかはづかも

二一六四番

瀬せを速はやみ 落おち激たぎちたる 白波しらなみに かはづ鳴なくな
り 朝夕あさよひごとに

二一六五番

上かみつ瀬せに かはづ妻呼つまよぶ 夕ゆふされば 衣手寒ころもでさむみ
妻つままかむとか

二一六六番

妹いもが手てを 取石とろしの池いけの 波なみの間まゆ 鳥とりが音ね異けに鳴な
く 秋過あきすぎぬらし